

かわせみ



Hachiōji
Kawasemikai

Kawasemi



190 Kamei

1992.8 No. 9

八王子カワセミ会・発行

かわせみ 第9号 目 次

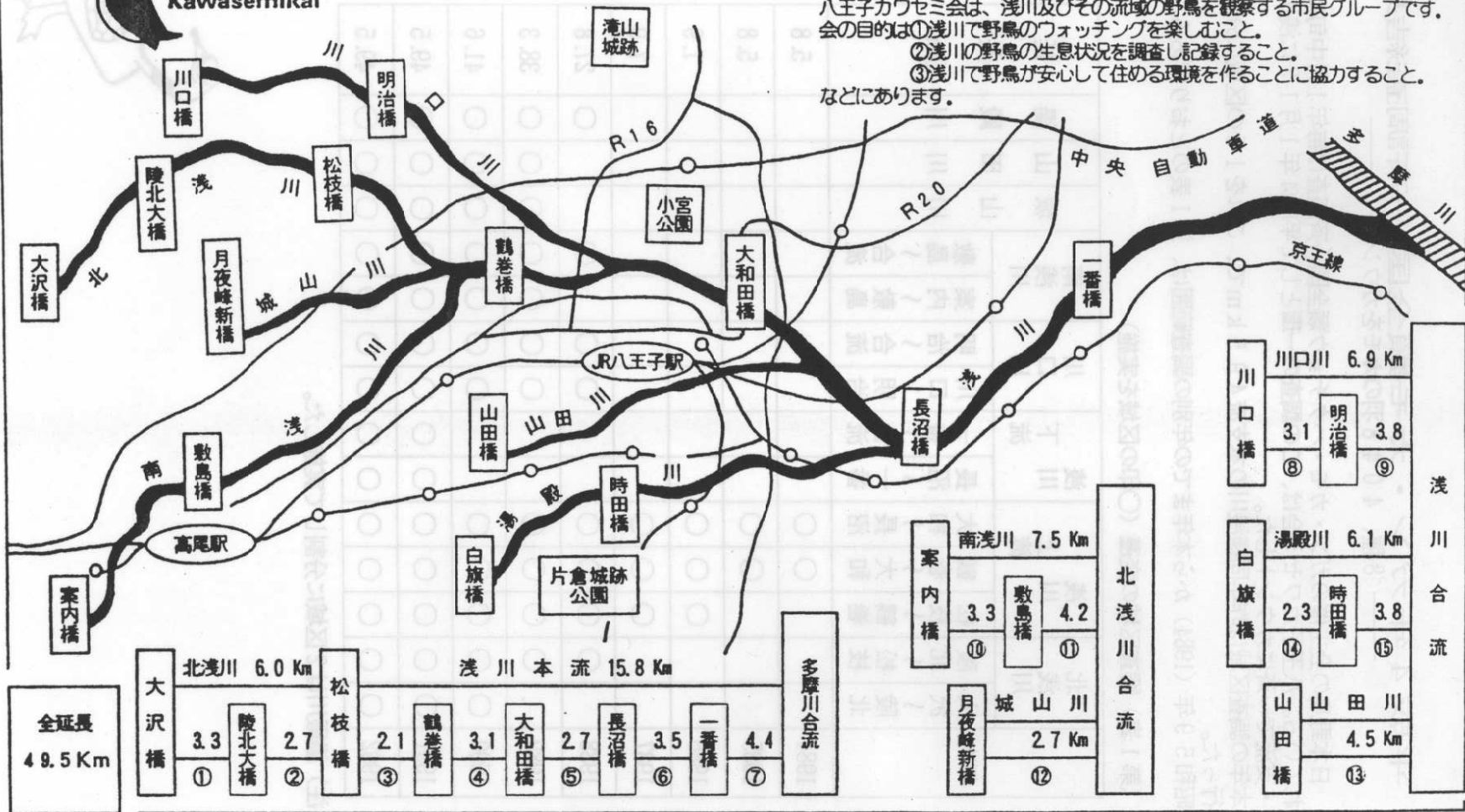
	ページ
☆ 平成4年・ガン、カモ類全国一斉調査結果	3
☆ 浅川の冬鳥分布(1992)	7
☆ 八王子市の鳥・オオルリ・25羽を確認	11
☆ 浅川のカルガモ繁殖状況調査結果	14
☆ 東浅川のアマツバメ	17
☆ ハクセキレイの集団ねぐら	18
☆ 鳥 信	19
☆ 短 信 欄	25
☆ カワセミの巣が危ない	27
☆ ウオッチング・コーナー	28
◇ 正会員として参加出来た第1回探鳥会	
◇ アマチュア無線を始めてみませんか	
◇ ツルの北帰行を見る	
◇ クビワキンクロとスズガモを見た	
◇ 俳 句	
◇ 三宅島探鳥行	
◇ バードリスニングと定点観察	
◇ 燕の巣作りと巣立ち記録	
◇ 遺跡の山でサコウチョウ とつきあいながら馬場氏の「近頃雑観」に思う	
◇ 身近にいる鳥たち	
☆ 八王子カワセミ会新入会員のしおり	38
☆ 編 集 後 記 (おねがい)	40



Hachiōji
Kawasemikai

八王子カワセミ会の主な活動範囲 位置図

八王子カワセミ会は、浅川及びその流域の野鳥を観察する市民グループです。
 会の目的は①浅川で野鳥のウォッチングを楽しむこと。
 ②浅川の野鳥の生息状況を調査し記録すること。
 ③浅川で野鳥が安心して住める環境を作ることに協力すること。
 などにあります。



全延長
49.5 Km

北浅川 6.0 Km	大沢橋 3.3 ①	陵北大橋 2.7 ②	松枝橋 2.1 ③	鶴巻橋 3.1 ④	大和田橋 2.7 ⑤	長沼橋 3.5 ⑥	一番橋 4.4 ⑦	多摩川合流
浅川本流 15.8 Km								

南浅川 7.5 Km	案内橋 3.3 ⑩	数島橋 4.2 ⑪	北浅川合流
城山川 2.7 Km			

川口川 6.9 Km	川口橋 3.1 ⑧	明治橋 3.8 ⑨	浅川合流
湯殿川 6.1 Km	白旗橋 2.3 ⑭	時田橋 3.8 ⑮	
山田川 4.5 Km	山田橋 ⑬		

平成4年ガン・カモ類全国一斉調査結果

—— 8種、4048羽のカモをカウント ——

日本野鳥の会主催のガン・カモ・ハクチョウ類全国一斉調査は毎年1月中旬に行われている。八王子カワセミ会は、この調査の一環として平成4年1月12に浅川の本・支流で一斉にカウントした。

本年の調査区域は昨年同様浅川の本支流49.5kmで、これを15の区域に分割して行った。

昭和59年(1984)から本年までの年別の調査範囲は、第1表のとおりである。

(第1表) 調査区域の変遷 (○印の区域を実施)

年次	北浅川		浅川 上流			浅川 下流		川口川		南浅川		城山 山田川	湯殿川	延長 (Km)
	大沢 〜 陵北	陵北 〜 松枝	松枝 〜 鶴巻	鶴巻 〜 大和	大和 〜 長沼	長沼 〜 一番	一番 〜 合流	川口 〜 明治	明治 〜 合流	案内 〜 敷島	敷島 〜 合流			
1984				○	○									5.8
1985				○	○									5.8
1986			○	○	○									7.9
1987			○	○	○									7.9
1988		○	○	○	○			○	○		○		○	27.8
1989		○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	38.3
1990	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	41.6
1991	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	49.5
1992	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	49.5

注) 湯殿川は2区域に分割して実施した。



本年の調査参加会員数は41人であり、各区域別の具体的な範囲及び調査担当者の氏名は第2表のとおりである。

(第2表) 平成4年の浅川における調査区域及び調査担当者

区 域		延長 (km)	調査メンバー (責任者)	
1	北浅川	大沢橋	3.3 [今井達郎]	
		陵北大橋		
2	6.0km		2.7 [河村道寛 洋子] 小助川千恵子 野口忠義	
3	浅川	松枝橋	15.8Km	
		鶴巻橋		2.1 [三好恒雄] 永見博子 名取一郎
		大和田橋		3.1 [田中英吉 藤江豊]
		長沼橋		2.7 [斎藤高昭] 小山万太郎
		一番橋		3.5 [山崎悠一 門口一雄] 山崎久美子 門口裕子
		多摩川合流		4.4 [阿江範彦] 渡嘉敷敏子 小笠原敏子
		7.9		
4	上流		3.1 [田中英吉 藤江豊]	
5	7.9		2.7 [斎藤高昭] 小山万太郎	
6	下流		3.5 [山崎悠一 門口一雄] 山崎久美子 門口裕子	
7	7.9		4.4 [阿江範彦] 渡嘉敷敏子 小笠原敏子	
8	川口川	川口橋	3.1 [関根伸一 大関豊]	
		明治橋		
		浅川合流		
9	6.9Km		3.8 [清水茂 福島弥四郎] 北平章 原国弘	
10	南浅川	案内橋	3.3 [川上志] 久保田ヤス子	
		敷島橋		
		北浅川合流		
11	7.5Km		4.2 [榛沢努] 貴家やゑ子 大塚行子 佐倉恵子	
12	城山川	月夜峰新橋	2.7 [木村晴美] 小沢礼子	
		北浅川合流		
13	山田川	山田橋	4.5 [馬場裕] 川浦丹次郎 西脇茂雄	
		浅川合流		
14	湯殿川	白旗橋	2.3 [粕谷和夫] 岡島直人 寺沢祐仁	
		時田橋		
		浅川合流		
15	6.1Km		3.8 [平沢辰夫] 三富恒雄	
		合 計	49.5	41人

本年のカウント結果は、第3表のとおりで、カモ8種、4048羽を記録した。種類別では多い順にコガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモで、この4種で全体の98%を占め、昨年と変わらなかった。昨年記録したアメリカコガモ、ヨシガモ、キンクロハジロの3種は本年は観察されなかった。

100m当たりの数で区域別に比較すると、支流部や上流部で少なく、平坦部の市街地で個体数が多いことがよくわかる。

また、個体数の多い所は種類数も多いことが明瞭であり、この傾向は過去数年変化はない。

(第3表) 平成4年における浅川の区域別カモ出現数

(1992' 1. 12)

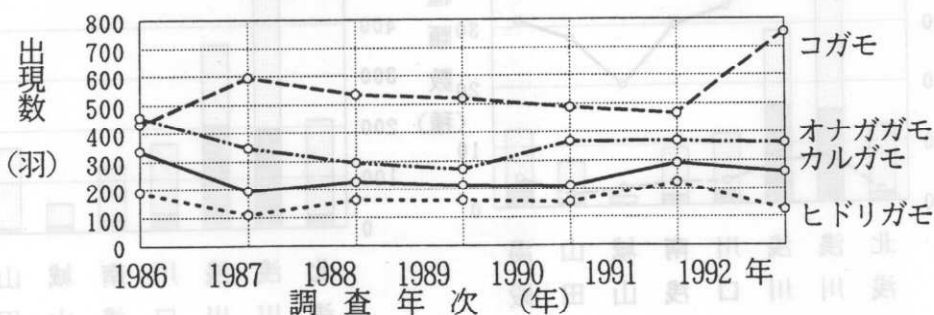
		マガモ	カルガモ	コガモ	アメリカコガモ	ヨシガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	キンクロハジロ	ミコアイサ	計	100m当たりの数	種類数
北浅川	大沢～陵北		29	31									60	2	2
	陵北～松枝		64	27									91	3	2
浅川上流	松枝～鶴巻		42	117					12				171	8	3
	鶴巻～大和	2	141	194				12	143				492	16	5
	大和～長沼		75	442			6	113	207	27		5	875	32	7
同下流	長沼～一番		112	350			6	74	82	5		10	639	18	7
	一番～合流		229	395				205	153	7			989	22	5
川口川	川口～明治	5	59	50									114	4	3
	明治～合流		86	19					9				114	3	3
南浅川	案内～敷島		36										36	1	1
	敷島～合流		48	66				5	6				125	3	4
城山川			21	10					4				35	1	3
山田川			41	5									46	1	2
湯殿川	白旗～時田	2	40	40					15				97	4	4
	時田～合流		74	51				7	32				164	4	4
計		9	1097	1797	0	0	12	416	663	39	0	15	4048	8	8

次にカモ出現数の経年変化を浅川上流の松枝橋～長沼橋間で見ると(第4表)総数では1986年以降毎年ほぼ1200から1400羽の範囲であったが、本年は1538羽と過去最高になった。この内、上位4種について種類別に出現数をグラフ化したものが、第1図でコガモの増加が顕著である。(とりまとめ粕谷和夫 阿江範彦)

(第4表) 浅川本流(松枝橋～長沼橋 7.9km)の1月中旬における年次別カモ出現数(羽)

種類 / 年次	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992
コガモ	432	593	534	520	488	468	753
オナガモ	457	346	295	271	367	368	362
カルガモ	335	193	228	213	210	290	258
ヒドリガモ	187	108	161	158	152	222	125
ハシビロガモ	3	18	12	16	17	5	27
マガモ	4	3	9	2		2	2
ミコアイサ				11		8	5
キンクロハジロ					3		0
オカヨシガモ				2			6
アメリカコガモ						1	0
オシドリ	1						0
計	1419	1261	1239	1193	1237	1364	1538
100 m 当たり数	18	16	16	15	16	17	19

(第1図) 浅川上流(松枝橋～長沼橋 7.9km)の1月中旬における年次別カモ出現数



浅川の冬鳥分布 (1992)

59種、12,800羽を確認

平成4年ガン・カモ類全国一斉調査と同時にカモ類以外の浅川の全野鳥をカウントした。調査範囲、担当者等は「平成4年ガン・カモ類全国一斉調査結果」の記事の、(第2表)と同じである。

出現した野鳥の種類は59種、総数は約12,800羽で、昨年とはほぼ同じ結果となった。調査区域別の内訳は、第5表及び第2図のとおりであり、第2図の内総羽数を1Km当たりで比較したものが第3図である。また種類別内訳は、第6表のとおりである。

(第5表) 浅川の冬鳥の種類数と総羽数

		北浅川	上流	下流	川口川	南浅川	城山川	山田川	湯殿川	計
総羽数 (羽)	カモ	151	1538	1628	228	161	35	46	261	4,048
	カモ以外	1134	2831	1249	941	777	116	711	1018	8,777
	計	1285	4369	2877	1169	938	151	757	1279	12,825
種類数 (種)	全種類	36	48	43	33	30	20	28	31	59
	カモ	2	8	7	4	4	3	2	5	8

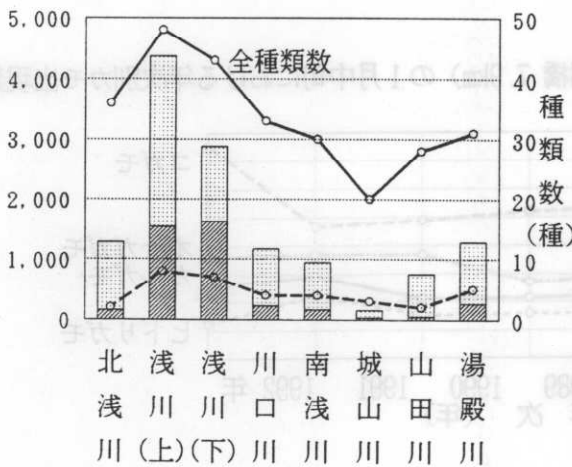
(第2図)

浅川の冬鳥の区域別種類数と総羽数

(カモの総羽数 [斜線] と種類数 [点線])

(カモ以外の総羽数 [格子])

総羽数 (羽)



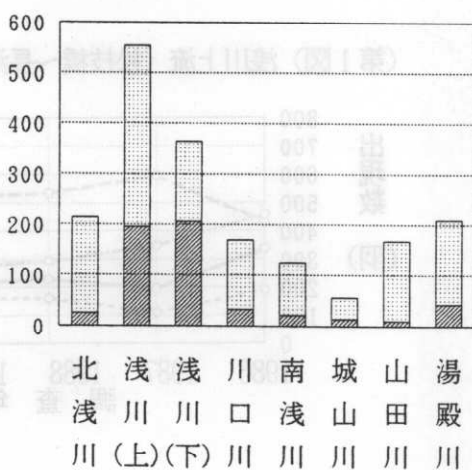
(第3図)

浅川の冬鳥の区域別1km当たりの総羽数

(カモの総羽数 [斜線])

(カモ以外の総羽数 [格子])

総羽数 (羽)



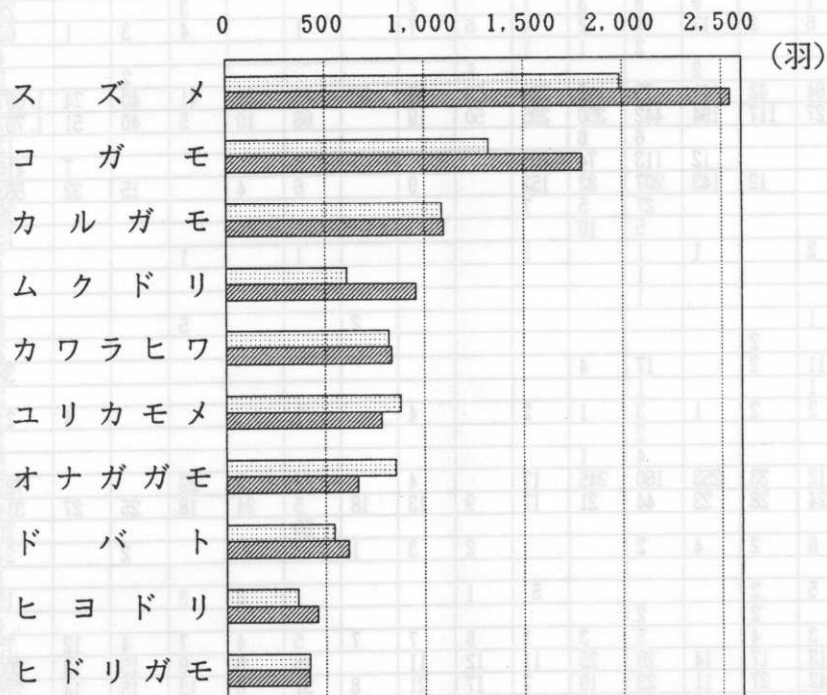
(第6表) 浅川における冬鳥の出現数

(1992' 1. 12) 八王子カワセミ会

番号	名称	北浅川		浅川上流			浅川下流		川口川		南浅川		城山	山田	湯殿川		合計
		大沢 陵北	陵北 松枝	松枝 鶴巻	鶴巻 大和	大和 長沼	長沼 一番	一番 合流	川口 明治	明治 合流	案内 敷島	敷島 合流	月夜 合流	山田 合流	白旗 時田	時田 合流	
5	カイツブリ							3									3
40	カワウ			8	17	16	8	9		6		10		2			76
52	ダイサギ						4										4
57	ダイサギ		1		9	9	3	1		2			3				28
59	コサギ	4	6	2	17	9	2	4	6	7		1	4	3	1		66
62	アオサギ					2	1	1									4
87	マガモ				2				5						2		9
88	カルガモ	29	64	42	141	75	112	229	59	86	36	48	21	41	40	74	1,097
89	コガモ	31	27	117	194	442	350	395	50	19		66	10	5	40	51	1,797
92	オカヨシガモ					6	6										12
93	ヒドリガモ				12	113	74	205				5				7	416
95	ナガガモ			12	143	207	82	153	9		6	4			15	32	663
97	ハシビロガモ					27	5	7									39
115	ミゾアイサ					5	10										15
120	トビ		2		1	1		1			1		1				7
123	オオカ					1											1
145	チョウゲンボウ					1											1
149	コジュナイ		1							2			5				8
151	キツ			2													2
177	イカルオドリ	4	11	2		17	4										38
214	クサシギ		1			1											2
218	イソシギ	1	2	2	1	3	1	2		4		1				4	21
230	クサシギ					2											2
240	セグロカモメ					4	1										5
245	ユリカモメ		12	33	253	160	245	17		4		28	2	29			783
296	キジバト	18	24	28	23	44	21	17	9	13	18	5	24	18	25	27	314
319	ヒナマツバ											20					20
326	カワセミ	2	6	2	4	2			2	3	1				2		24
331	アオゲラ	1															1
339	コガラ		5	2				5	1				3	3			19
344	ヒヨ			2		2											4
354	キセキレイ	5	3	4		5	3	1	8	7	7	5	4	7	4	12	75
355	ハクセキレイ	10	13	17	14	26	25	11	12	11		15	9	9	15	13	200
356	セグロセキレイ	21	42	27	11	23	19	7	17	21	8	31	6	13	15	14	275
363	クハバ	1	5	2	3	58	15	4	5	9		9	1	3	5	5	125
367	ヒヨドリ	19	27	32	20	74	17	21	15	30	28	40	3	76	15	42	459
369	モズ	2	4	2		2	2	2	1		1	1			1	2	20
387	ジョウビタキ	1	2	2	5	3	3	2			3				1	1	25
400	アカハラ													1	1		2
402	シロハラ								1								1
405	ツグミ	13	21	33	21	40	22	12	8	23	13	13	5	12	15	28	279
410	ウグイス	1	2					1	2						1	2	9
425	セッカ					1											1
435	エナガ								6								6
441	シジョウカラ	3	11	16	4	15	2	11	2	11			4	13	4	5	101
444	メジロ			4				3			2					2	11
449	オオシロ	1	106	28	6	7	15	17		2	4	1			20	2	209
455	カンザカ	13	12	3			3	2									33
461	アオジ	8	23	32	2	7	3	5	3	3	6		1	14	10	3	120
471	カラヒク	17	260	180	60	110	25	81	14	30			8	4	15	31	835
486	シメ	1	8	3	1	4			3				1	4			26
488	スズメ	26	115	90	327	220	110	180	210	210	60	180	23	362	80	350	2,543
493	ムナドリ	39	63	120	152	115	58	58	28	44	16	76	13	44	50	82	958
498	オナガ		6				2		12	10				11			43
503	ハシボソガラス	10	41	6	7	14	18	15	20	10	7	5	4	18	20	19	214
504	ハシトガラス		28	50	8	22	2	4		4	5	4		5	1	9	142
A	アヒル	1			1	2	1				3	7					15
B	ドバト	5	44	4	68	36	90	26	1	91	23	117	5	48	20	38	616
U	ハッカチョウ							1									1
合計		287	998	909	1527	1933	1364	1513	500	669	240	698	151	757	420	859	12,825
種類数		28	34	33	30	43	37	36	26	26	18	26	20	28	26	28	59

第6表から総羽数の多い順に上位10位までを並べかえてグラフ化し、昨年と比較したものが第4図である。

(第4図) 浅川における野鳥のベスト10 (1991' (点線))
(1992' (斜線))



第4図の内、カモ類以外の鳥及びキジバト、ヒヨドリ、ツグミ等比較的数の多い鳥の昭和63年以降の年次別出現数の変遷は第7表のとおりである。

(第7表) 浅川における出現数の多い冬鳥の年次変化 (羽)

年	1988'	1989'	1990'	1991'	1992'
調査範囲	27.8km	38.3km	41.6km	49.5km	49.5km
ユリカモメ	161	271	424	881	783
キジバト	191	123	263	206	314
ドバト	179	258	390	544	616
ヒヨドリ	158	189	298	359	459
ツグミ	127	254	379	179	279
カワラヒワ	766	583	1,100	819	835
スズメ	2,590	1,592	2,371	1,987	2,543
ムクドリ	540	525	700	609	958

次に水辺の鳥の年次変化を第8表に整理した。本年はカワセミが倍増した。カワウは90年の2月頃から浅川に出現したので、毎年1月中旬のカウントである本調査には91年からの登場である。セグロカモメは90年からの登場である。

(第8表) 浅川における水辺の鳥の年次変化

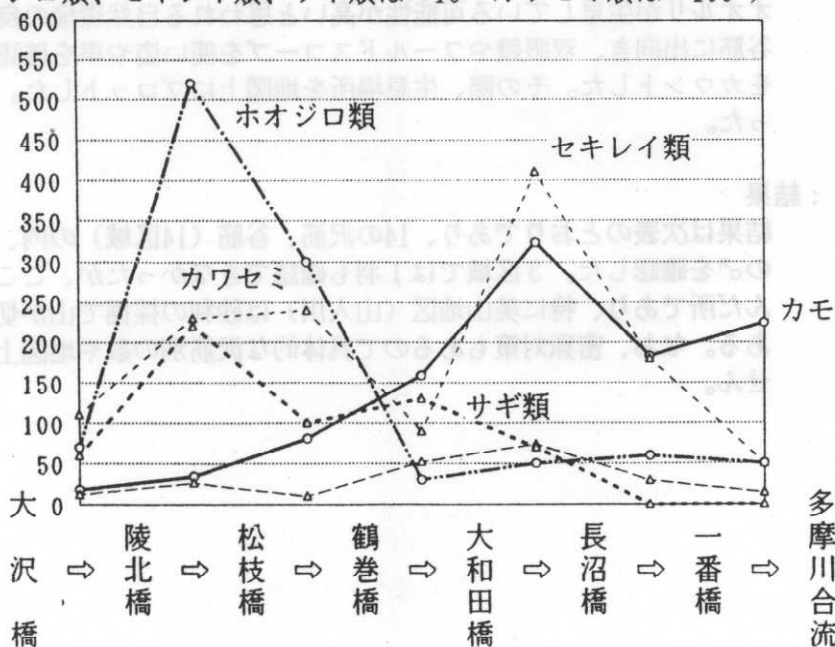
年	1988'	1989'	1990'	1991'	1992'
調査範囲	27.8km	38.3km	41.6km	49.5km	49.5km
カイツブリ	3	2		1	3
カワウ				108	76
ゴイサギ	8	21	2	6	4
ダイサギ	3	8	6	31	28
コサギ	71	64	51	54	66
アオサギ		1		8	4
イカルチドリ	15	3	15	22	38
ハマシギ		5		5	
クサシギ		1		2	2
イソシギ	4	23	11	23	21
タシギ	1	5	5	5	2
セグロカモメ			4	5	5
ユリカモメ	161	271	424	881	783
カワセミ	10	10	11	13	24
キセキレイ	19	27	51	59	75
ハクセキレイ	117	122	131	182	200
セグロセキレイ	148	201	190	236	275
タヒバリ	77	101	61	101	125
全種類数	47種	51種	50種	60種	59種

なお、第7表の内、北浅川の大沢橋から多摩川合流点まで21.8kmを調査区域別に1km当たりで比較したものが第5図である。上流部にホオジロ類が多く、下流部にカモ類が多いことが明瞭である。

(とりまとめ：粕谷和夫 阿江範彦)

(第5図) 浅川の各区域ごと1km当たりの出現数(1992')

(ホオジロ類、セキレイ類、サギ類は×10 カワセミ類は×100)



八王子市の鳥オオルリ 25羽を確認

——八王子カワセミ会が市の鳥を一斉カウント——

八王子市が昨年市の鳥として制定した「オオルリ」が八王子市内に何羽いるか。八王子カワセミ会は本年の春一斉カウント調査を行った。調査内容、結果等は下記に示すが、八王子市内でオオルリ♂25羽の生息を確認した。♀は地味な模様でさえなく、目立たないので、カウントしなかったが同数程度いると推定されるので、約50羽いたということになる。これが多いか、少ないかは議論のあるところであり、今後さらに検討する必要がある。

オオルリは開発の進んだ所には住むことができず、自然豊かな環境に生息する。本調査は八王子の自然が破壊され、オオルリが「幻の鳥」にならないよう願いを込めて行われたものである。なお、今回の調査中、1ヶ所でオトリのオオルリをかごに抱え、トリモチ棒を持った密猟者に出会ってしまった。このような密猟者がいまだに存在していることは悲しいことである。

記

1：調査場所

八王子市内の標高170メートル以上の沢筋、谷筋14区域で総延長は約66km（浅川の本支流の上流域で通常八王子カワセミ会の活動範囲より上流部である）

2：調査時期

平成4（1992）年4月下旬～5月10日（場所により調査日は異なる）

3：調査参加会員数 延べ58名

4：調査方法

オオルリが生息している可能性が高いと思われる自然環境の良好な山間部の沢筋、谷筋に出向き、双眼鏡やフルドスコープを使い姿や声を確認してオオルリ♂の数をカウントした。その際、生息場所を地図上にプロットした。♀はカウントしなかった。

5：結果

結果は次表のとおりであり、14の沢筋、谷筋（14区域）の内、11区域で合計25羽の♂を確認した。3区域では1羽も確認できなかったが、ここは他と比べ開発の進んだ所であり、特に美山地区（山入川）は砂利の採掘で山が切り崩されている所である。なお、密猟対策もあるので具体的な沢筋別の数や地図上の場所は公表できません。

(オオルリ調査結果)

区 域	支流名	調査延長	オオルリ有無	責任者	参加会員数
1 : 今熊山周辺	川口川	4.0	○	河村道寛	2
2 : 美山	山入川	4.3	×	斉藤高昭	1
3 : 小津	小津川	4.3	○	三好恒雄	3
4 : 醍醐	醍醐川	4.5	○	馬場 裕	2
5 : 案下	案下川	2.8	○	門口一雄	2
6 : 夕焼け小焼周辺	北浅川	4.5	○	平沢辰夫	1
7 : 松竹周辺	北浅川	10.0	○	今井達郎	3
8 : 八王子城跡周辺	城山川	1.3	×	関根 伸	1
9 : 小仏・小下沢	小仏川	4.9	○	阿江範彦	35
10 : 日影沢周辺	小仏川	3.9	○	榛沢 努	1
11 : 高尾山	案内川	8.0	○	粕谷和夫	3
12 : 大垂水周辺	案内川	3.5	○	川上 恚	2
13 : 南高尾周辺	案内川	7.2	○	大関 豊	1
14 : 初沢川	初沢川	2.5	×	田中英吉	1
計	浅川	65.7 km	○ : 11ヶ所 (♂25羽)		58名

注) ①9 : 小仏・小下沢の参加会員数は5月3日のオオルリ勉強会参加者を含む。

②殆どの区域で数カ所(複数)の沢・谷を調査した。

6 : 新聞報道

読売新聞が5月1日及び5月11日、また毎日新聞が5月11日付けのそれぞれ多摩版でこの調査の内容、結果を報じた。

7 : その他

オオルリのカウントと同時に同じ調査区域内に出現した全野鳥を調査した。結果は次表のとおり56種で、オオタカ、ツミ、サシバ、ヨタカ、トラツグミ、サンコウチョウ、クロジ等の稀少種を確認した。

ヒヨドリ、ウグイス、シジュウカラは、全ての区域に出現した。キジバト、キセキレイ、ホオジロ、スズメ、カケス、ハシボソガラスも10ヶ所以上で出現した。カルガモがかなり上流部に来ていることが認められた。

また、オオルリの住む良好な自然環境ということでアヒル、ドバトはどこにも出ず、ムクドリも2ヶ所では認められなかった。

(取りまとめ : 粕谷和夫)

オオルリ出現地における全野鳥の出現状況 (○印) 1992.4月下旬~5月10日

区 域	種 類	①今熊山	②美	③小	④醍	⑤案	⑥夕焼け小焼け	⑦松	⑧八王子城跡	⑨小仏・小下沢	⑩日影沢	⑪高尾	⑫大垂水	⑬南高尾	⑭初沢	計 (出現ヶ所数)
		周辺	山	津	醐	下	周辺	周辺	周辺	周辺	周辺	山	周辺	周辺	川	
Km		4.0	4.3	4.3	4.5	2.8	4.5	10.0	1.3	4.9	3.9	8.0	3.5	7.2	2.5	65.7
088	カルガモ			○	○	○					○	○	○		○	7
120	トビ					○							○		○	3
123	オオタカ													○		1
125	ツミ			○												1
130	サシバ								○							1
145	チョウゲンボウ	○														1
149	コジュケイ			○		○	○	○				○	○	○	○	8
151	キジ		○	○		○						○	○			4
296	キジバト		○	○	○			○	○			○	○	○	○	11
298	アオバト					○				○	○			○		4
303	ツツドリ			○		○			○	○			○			6
304	ホトトギス					○										1
317	ヨタカ												○			1
319	ヒメアマツバメ					○		○				○				3
320	アマツバメ	○	○				○									3
326	カワセミ													○		1
331	アオゲラ	○		○				○	○			○	○	○		5
339	コゲラ	○				○	○		○		○	○	○	○		9
347	ツバメ	○	○			○	○	○		○		○			○	8
350	イワツバメ					○						○				2
354	キセキレイ		○	○	○	○		○	○		○	○	○		○	12
355	ハクセキレイ					○				○					○	3
356	セグロセキレイ					○						○	○	○	○	4
367	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
369	モズ					○							○			2
375	カワガラス			○					○		○		○			4
376	ミソサザイ	○					○		○							6
396	トラツグミ			○												1
399	クロツグミ	○		○			○		○		○			○		8
400	アカハラ				○											1
405	ツグミ					○							○		○	3
409	ヤブサメ			○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	8
410	ウグイス	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	14
422	センダイムシクイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
424	キクイタダキ					○						○				1
427	キビタキ					○						○				2
430	オオルリ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
434	サンコウチョウ			○												1
435	エナガ			○	○	○	○				○		○			6
438	コガラ					○	○									2
439	ヒガラ	○		○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	8
440	ヤマガラ	○		○		○	○			○	○	○	○	○	○	9
441	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
442	ゴジュウカラ					○										2
444	メジロ	○		○		○			○		○		○	○	○	9
449	ホオジロ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
462	クロジ													○		1
471	カワラヒワ			○			○					○	○	○		5
472	マヒワ								○							1
485	イカル			○				○				○				3
488	スズメ	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	10
493	ムクドリ		○			○										2
496	カケス	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○		11
498	オナガ													○		2
503	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○			11
504	ハシブトガラス		○			○						○			○	8
	計 (種類数)	19	14	28	17	29	29	10	13	21	21	28	25	30	14	56
	密 猟 者						○									1

平成4年

浅川のカルガモ繁殖状況調査結果

浅川で繁殖しているカルガモを1988年以来毎年カウントしています。今年も例年どおり浅川の本支流を15に区分し、会員が分担して6月から7月の間に調査しました。

◎結果は第1表のとおりで、親子連れファミリー数は54組、子272羽で、昨年の57組318羽と比べ減少し、2年連続の減少となりました。

◎本支流別の内訳は第2表のとおりであり、川口川での減少が顕著です。これは現在進行中の川口川の河川改修の影響と見られます。

◎(9)川口川(明治橋～浅川合流点)の内、清水橋から下流は殆どコンクリート護岸となり、兩岸から川の中央までコンクリート河床となり、流れは川の中央だけを流れるようになり、ドブの大きい流れという感じのものになってしまいました。かつ両岸は、全て草が刈り取られてしまい、カルガモの繁殖(営巣、抱卵、育雛)する環境とは言いがたい状況に変わってしまいました。

◎各区間別の内訳は第3表のとおりで、浅川の全ての区間でカルガモが繁殖しています。

◎(10)南浅川(案内橋～敷島橋)では調査中に数カ所でカジカガエルの声を聞き、またこの間の上栲田橋付近で6月中旬～下旬にホタルが観察されました。

なお、本年の区間別調査担当者は次のとおりです。(取りまとめ: 粕谷 和夫)

- (1) 北浅川 (大沢橋 ～ 陵北大橋) . . . 今井達郎
- (2) 北浅川 (陵北大橋～松枝橋) . . . 河村道寛・洋子
- (3) 浅川本流 (松枝橋 ～ 鶴巻橋) . . . 福島弥四郎 清水茂 大関豊 北平章
- (4) 浅川本流 (鶴巻橋 ～ 大和田橋) . . . 田中英吉
- (5) 浅川本流 (大和田橋～長沼橋) . . . 門口一雄 川上恚
- (6) 浅川本流 (長沼橋 ～ 一番橋) . . . 門口一雄 山崎悠一・久美子
- (7) 浅川本流 (一番橋 ～ 多摩川合流点) . 阿江範彦 谷井正剛
- (8) 川口川 (川口橋 ～ 明治橋) . . . 関根伸一・光世
- (9) 川口川 (明治橋 ～ 浅川合流点) . . . 三好恒雄
- (10) 南浅川 (案内橋 ～ 敷島橋) . . . 川上恚
- (11) 南浅川 (敷島橋 ～ 浅川合流点) . . . 榛沢努
- (12) 城山川 (月夜峰新橋～浅川合流点) . . . 木村晴美
- (13) 山田川 (山田橋 ～ 浅川合流点) . . . 馬場裕・百合亜
- (14) 湯殿川 (白旗橋 ～ 時田橋) . . . 大関豊
- (15) 湯殿川 (時田橋 ～ 浅川合流点) . . . 平沢辰夫

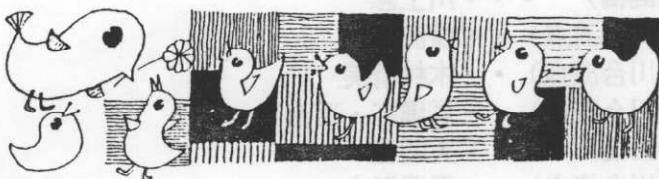
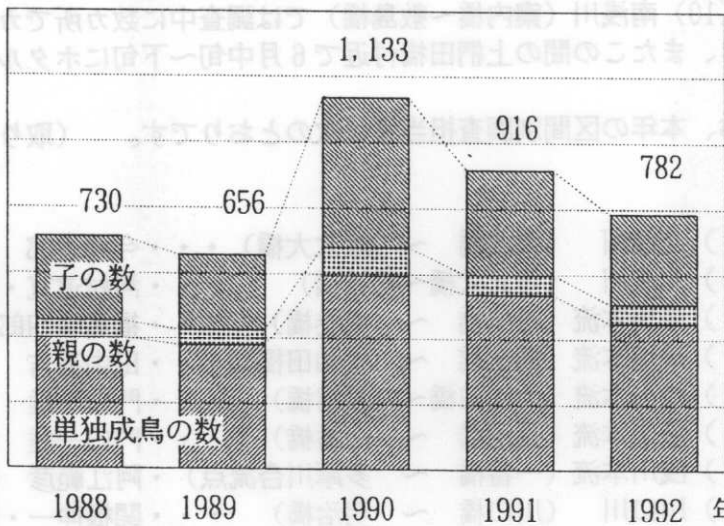
(第1表) 浅川におけるカルガモの繁殖状況年次変化 (単位: 組、羽)

年次	親子連れ				単独成鳥	総計
	組数	親の数	子の数	平均子数		
1988	52	52	276	5.3	402	730
1989	45	49	228	5.1	379	656
1990	84	88	451	5.4	594	1133
1991	57	61	318	5.6	537	916
1992	54	58	272	5.0	452	782

(第2表) 浅川の本支流別カルガモの親子連れ組数 (単位: 組)

年次	北浅川	浅川本流	川口川	南浅川	城山川	山田川	湯殿川	合計
1988	2	30	13	2	0	1	4	52
1989	0	18	7	6	9	1	4	45
1990	2	36	15	11	9	1	10	84
1991	2	22	10	5	5	1	12	57
1992	3	24	5	4	6	1	11	54

(第1図) カルガモ総数の年変化



(第3表) 平成4年 区間別カルガモ調査結果 (1992年6月～7月)

区 間	親子連れ			単 独 成 鳥
	組数	親	子	
1 : 北浅川 (大沢橋 ～ 陵北大橋)	1	1	6	17
2 : 北浅川 (陵北大橋～松枝橋)	2	2	9	44
3 : 浅川本流 (松枝橋 ～ 鶴巻橋)	2	2	9	25
4 : 浅川本流 (鶴巻橋 ～ 大和田橋)	7	7	30	68
5 : 浅川本流 (大和田橋～ 長沼橋)	9	9	45	67
6 : 浅川本流 (長沼橋 ～ 一番橋)	5	5	24	24
7 : 浅川本流 (一番橋 ～ 多摩川合流点)	1	1	5	67
8 : 川口川 (川口橋 ～ 明治橋)	3	3	21	15
9 : 川口川 (明治橋 ～ 浅川合流点)	2	2	4	32
10 : 南浅川 (案内橋 ～ 敷島橋)	1	1	6	4
11 : 南浅川 (敷島橋 ～ 浅川合流点)	3	3	22	40
12 : 城山川 (月夜峰新橋～浅川合流点)	6	9	37	13
13 : 山田川 (山田橋 ～ 浅川合流点)	1	1	6	2
14 : 湯殿川 (白旗橋 ～ 時田橋)	2	2	12	13
15 : 湯殿川 (時田橋 ～ 浅川合流点)	9	10	36	21
計	54	58	272	452

東浅川のヒメアマツバメ

八王子市東浅川の京王高尾線高架下（町田街道との交差点の東側）に越冬ヒメアマツバメの貴重なコロニーがあり、1989年6月から毎月1回（朝、昼、夕）観察している。このコロニーの直下（高架下の空地）に1980年8月～翌年4月に京王帝都電鉄(株)が社宅を建設したので、コロニーの破壊が心配されたが、幸い同社の配慮で保護されている。しかし、本年6月に到り、社宅の居住者が取り付けたと思われる防鳥目玉風船約10個が認められた。今後これがヒメアマツバメのねぐら場所の放棄にならないか心配されるところである。

92年1月～6月の観察結果概要は次のとおりであり、朝ねぐらから飛び出し、夕方に帰巢するパターンは変わっていない。

なお、ここは元はイワツバメの集団営巣地だったが、その巣をヒメアマツバメが乗っ取ったものであり、1989年まではイワツバメも営巣していたが、1990年からは、イワツバメは全て他の場所に移動してしまった。（観察者：川上 恵）

年月日	朝の飛出し	夕方の帰巢	日 中
92.1.15	8:00～ 8:38 約40羽	16:18～16:40 約45羽	観察できず
2.15	8:10～ 8:40 約40羽	16:45～17:10 約40羽	観察できず
3.7	8:08～ 8:40 約40羽	17:05～17:31 約40羽	出入り無し
4.26	6:35～ 7:25 約40羽（残留6羽）	17:45～18:10 20～30羽	約6羽、出入り有り （子育て中か？）
5.23	5:55～ 7:00 約40羽（残留10羽）	17:40～18:30 30～40羽	約10羽、出入り有り （子育て中か？）
6.21	6:00～ 6:50 約40羽（残留6羽）	17:40～18:15 約40羽	約6羽、出入り有り （子育て中か？）

ハクセキレイの集団ねぐら

八王子市横山町3丁目の三角広場にあるハクセキレイの集団ねぐら（ヤマモモ及びクスノキ）からの朝の飛び出し数を1990年2月から毎月1回カウントしている。1992年1月～6月のカウント結果は、次表のとおりでした。

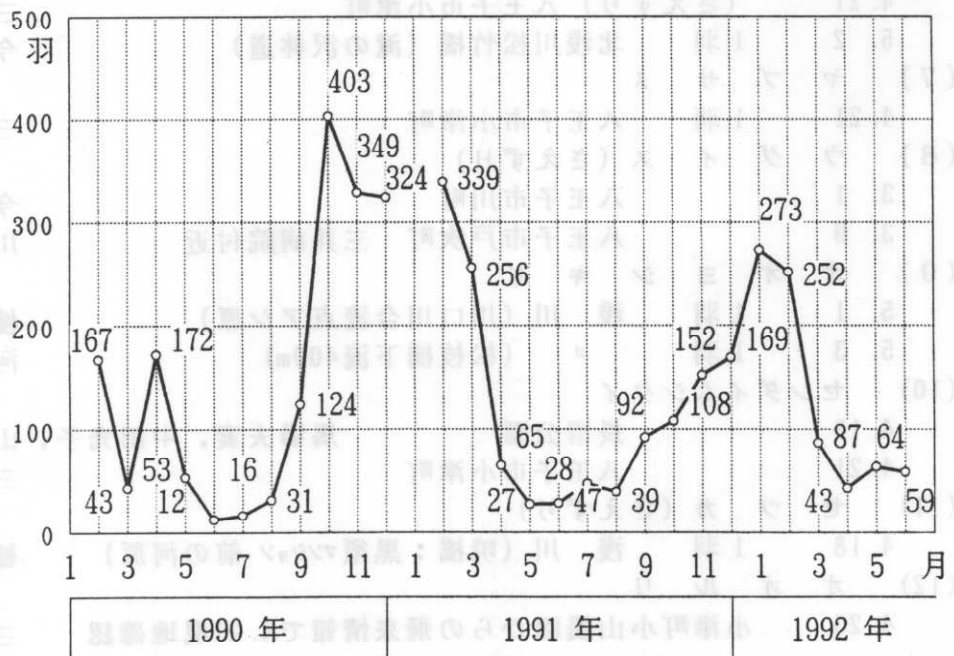
また、1990年からの変化は下図のとおりで、過去最高は403羽（1990年10月）最低は12羽（1990年6月）でした。

（観察者：田中英吉）

年月日	3:31	4:01	4:31	5:01	5:31	6:01	6:31	計
	4:00	4:30	5:00	5:30	6:00	6:30	7:00	
92.1.18						268	5	273
2.17					4	248		252
3.15				84	3			87
4.18			7	36				43
5.20	61	3						64
6.22	38	21						59

（単位：羽）

ハクセキレイ集団ねぐら飛び出し数の変化（91年1月は、データ欠落）



鳥信 鳥信

鳥信・・・

[1992年1月～6月]



1. 夏鳥の初認

(1)	サ	サ	ゴ	イ	5.19	1羽	浅川 (川口川との合流点)	榛沢 務		
(2)	コ	チ	ド	リ	3.15	1羽	浅川 (長沼橋＝一番橋)	山崎夫妻, 門口夫妻		
					4.8	1羽	" (大和田橋上流)	小山万太郎		
(3)	ヒ	バ	リ	(さえずり)	3.8		八王子市北野台	平沢辰夫		
(4)	ツ	バ	メ		3.20	1羽	浅川 (鶴巻橋上流)	清水 茂		
					3.20	3羽	" (萩原橋上空)	三好恒雄		
					3.20	2羽	湯殿川 (釜土橋＝大橋)	平 沢		
(5)	イ	ワ	ツ	バ	メ	3.10	1羽	八王子市元八王子1丁目上空	関根伸一	
(6)	ク	ロ	ツ	グ	ミ	4.21		(さえずり) 八王子市小津町	三 好	
					5.2	1羽	北浅川松竹橋 (滝の沢林道)	今井達郎		
(7)	ヤ	ブ	サ	メ	4.21	1羽	八王子市小津町	三 好		
(8)	ウ	グ	イ	ス (さえずり)	3.1		八王子市川町	今 井		
					3.9		八王子市戸吹町 三井病院付近	川上 憲		
(9)	オ	オ	ヨ	シ	キ	リ	5.1	1羽	浅川 (川口川合流点アシ原)	榛 沢
					5.3	1羽	" (松枝橋下流400m)	河村道寛		
(10)	セン	ダイ	ム	シ	ク	イ	4.18		長沼公園 馬場夫妻, 中田光子, 山崎悠一	
					4.21		八王子市小津町	三 好		
(11)	セ	ツ	カ	(さえずり)	4.18	1羽	浅川 (暁橋: 黒須マンション 前の河原)	榛 沢		
(12)	オ	オ	ル	リ	4.20		小津町小山農園からの飛来情報で4.21現地確認	三 好		

- (13) シ ジュウ カ ラ (さえずり)
2. 25 八王子市北野台 平 沢
- (14) メ ジ ロ (さえずり)
3. 7 八王子市北野台 平 沢
- (15) ホ オ ジ ロ (さえずり)
3. 11 八王子市北野台 平 沢
- (16) ア オ バ ズ ク
5. 15-p. m11:30 元八王子町霞カ丘住宅南 (浅川実験林?) 川 上

2. 通過, 終認, 越冬 等

- (1) コ ル リ
5. 6 1羽 八王子市小津町 (小津小学校跡) 粕谷和夫
- (2) ノ ビ タ キ
4. 19 1羽 (夏羽) 浅川 (松枝橋下流200m) 河 村
- (3) ジョウ ビ タ キ
3. 30 ♂ 1羽 中野上町5丁目 (自宅庭の餌台) 三 好

3. 希少種 (浅川付近)

- (1) アメリカコガモ
3. 15 1羽 浅川 (長沼橋=一番橋) 山崎夫妻, 門口一雄
- (2) ホ シ ハ ジ ロ
2. 19 1羽 浅川 (長沼橋下, 地元の人情報) 小 山
- (3) ミ コ ア イ サ
2. 10 ♀ 1羽 浅川 (浅川大橋上流側) 小 山
2. 12 ♂ 1羽 " (長沼橋下) 小 山
- (4) マ ル ガ モ
5. 17 1羽 浅川 (長沼橋=一番橋) 山崎夫妻
- (5) ツ ミ
5. 6 ♂ ♀ 各 1羽 八王子市小津町 粕 谷
- (6) ク イ ナ
1. 19-2. 2 1羽 浅川 (大和田水菅橋下流側) 斎藤高昭
- (7) バ ン
4. 23 1羽 多摩川 (昭島堰堤上) 三 好

- (8) ケ リ
4. 4 1羽 浅川 (陵北大橋下右岸北面) 河村夫妻
- (9) シ ロ チ ド リ
2. 28 1羽 多摩川 (滝山下水管橋上流側) 三好
- (10) ハ マ シ ギ
5. 17 約80羽 浅川 (滝合橋下流300m) 探鳥会
- (11) ア オ ア シ シ ギ
5. 9 2羽 多摩川 (浅川合流点) 阿江範彦他5名
- (12) アカエリヒレアシシギ
5. 27 ♀1羽 浅川 (暁橋上流 50m) 田中栄吉夫妻
- (13) コ ア ジ サ シ
5. 9 2羽 多摩川 (浅川合流点付近) 阿江他5名
- (14) カ ッ コ ウ
5. 24 (声) 八王子市榎原町 木村晴美
5. 26 1羽 八王子市榎原町日枝神社 木村
6. 1-6. 6 1羽 八王子市片倉町慈眼寺 門口
6. 26 1羽 多摩川 (滝山下) 三好
- (15) ホ ト ト ギ ス
5. 29 1羽 八王子市片倉町慈眼寺 門口
6. 7 3羽 北浅川 (大沢橋=陵北大橋) 今井
6. 10A. M5:30 (声) 八王子市川町 関根
- (16) ヤ マ セ ミ
6. 7 1羽 北浅川 (東大沢橋下流100mの木のの上) 今井
- (17) ショウドウツバメ
1. 23 1羽 浅川 (萩原橋上流側) 榎沢
2. 21 1羽 " (同上) 榎沢
- (18) コシアカツバメ
4. 18 1羽 浅川 (一番橋=多摩川合流) 阿江
5. 30 1羽 " (平山橋下流300m) 門口
6. 13 2羽 " (長沼橋=一番橋、餌運び中) 山崎
- (19) カ ワ ガ ラ ス
2. 17 1羽 北浅川・醍醐川 (関場付近) 粕谷
- (20) ミ ソ サ ザ イ
3. 8 5羽 八王子市小津町集落最上部 粕谷他16名
- (21) ト ラ ツ グ ミ
1. 26 1羽 長沼公園 (ビデオ撮影有り) 川浦丹二郎
5. 7 1羽 八王子市小津町集落最上部 粕谷、三好

- (22) アカハラ 1羽 湯殿川 (時田大橋付近右岸側の林) 粕谷
- (23) ルリビタキ
 1.19 ♂2羽 長沼公園 馬場夫妻, 三富恒男
 2.16 ♂1羽 " 馬場夫妻, 山崎夫妻
 2.17 4羽 北浅川・醍醐川 (龍泉寺付近) 粕谷
 3.22 1羽 小宮公園 榎沢, 田中
- (24) キクイタダキ 2.16 3羽 長沼公園 馬場夫妻, 山崎夫妻
- (25) オオルリ 6.20 ♂1羽 長沼公園 馬場夫妻
- (26) サンコウチョウ
 5.6-5.9 2羽 八王子市小津町 粕谷, 三好
 6.28 1羽 裏高尾小下沢 (声のみ) 関根
 6月~7月 1羽 町田市遺跡発掘現場付近 平沢
- (27) エナガ
 3.22 2羽 長沼公園 馬場, 山崎, 三富
 4.18 11羽 " 馬場夫妻, 中田, 山崎
 5.2 3羽 北浅川 (深沢橋上流200m) 今井, 関根, 馬場
- (28) クロジ 2.5 1羽 浅川 (長沼橋北岸の河原内の藪の中) 平沢
- (29) ウソ
 1.18 2羽 長沼公園 馬場夫妻, 三富
 1.19 番1組 長沼公園 (長沼団地側尾根鉄塔付近) 三富
- (30) コムクドリ 4.12 ♀1羽 多摩川滝山下 探鳥会
- (31) ハツカチヨウ
 1.12 1羽 浅川 (一番橋=多摩川合流) 阿江
 3.14 1羽 浅川 (") 阿江

4. 繁殖・行動・その他

- (1) ハイタカ
 3.22 1羽 川口川 (川口橋上流) 関根
 4.10 1羽 " (日枝神社の森) 関根
 4.25 2羽 " (") 関根夫妻

(1) ハイタカ (続き)

5. 3 2羽 川口川 (日枝神社の森) 関根他5名
※ 鳥を食べているところ、交尾して
いるところを観察。
5. 23 1羽 川口川 (日枝神社の森) 関根夫妻
6. 13 2羽 " (") 関 根
6. 20 2羽 " (") 関 根
※ 30分毎にオスがメスに小鳥を与え
ているところを観察。

(2) チョウゲンボウ

6. 21 ♀2, ♂1 浅 川 (新浅川橋付近) 門口, 川上
6. 28 " " " 齋藤高昭

(3) カルガモ

- 5月~6月 3組繁殖 八王子市中野上町喜福寺 粕 谷

(4) ハクセキレイ

6. 6 幼鳥に給餌 北浅川 (陵北大橋=松枝橋) 河村夫妻

(5) キセキレイ

- 6月~7月 自宅 [檜原町] のシュロの木の葉陰に営巢 木 村

(6) モズ

2. 20 1羽 多摩川 (大栗川合流付近) 三 富
水面上の木の枝からダイビングして
小魚を捕まえ、枝に戻る。カワセミ
と全く同じような行動をした。
2. 22 ♂♀各1羽 片倉城跡公園
給餌行動 (ベアリング 行動と思われる) 馬場, 三富, 平沢

(7) サンコウチョウ

7. 4 1組 八王子城跡付近 大関 豊

(8) ムクドリ

5. 16 巢立ち 八王子市大和田町6丁目 (戸袋) 小 山

(9) ハシボソカラス

3. 7 1組 多摩川 (浅川合流付近)
巢材に生木を折って運ぶ。 阿枝他4名

(10) カワウ

3. 15 浅 川 (松枝橋~鶴巻橋) 福島, 清水, 大関
上流方向へ飛んでくる時は大群で
下流へ戻る時は15羽位に分散。

- (11) ヒヨドリ
 4. 18 群れで飛来 (八王子市北野台4丁目大公園) 平 沢
 ナツグミの花を食べる。スズメと一緒に。
- (12) スズメ
 4. 9 桜 (オシザクラ)の花を食べる。八王子市清川町 永見博子
 (浅川の堤、桜並木一番下流側の木) 始めに
 5羽が花を食いちぎり、さらに6羽が来て花
 を食いちぎっていった。約20分位の間にざっと
 100%余りの花を花ごと落下させた。
4. 18 (11) 参照 花をついばんで下に落とす。 平 沢

5. その他

- (1) サル
 6. 28 1頭 裏高尾小下沢 (桑の実を食べていた) 関 根
- (2) タヌキ
 1. 9 1頭 多摩川 (浅川合流付近・地元の人情報) 阿江
 他5名
 1. 25 1頭 山田川 (国道16号の橋から10m上流の草藪の中、
 皮膚病の様子で衰弱していた) 馬場夫妻
- (3) リス
 3. 8 1頭 八王子市小津町集落最上部 粕谷他16名
- (4) イタチ
 1. 11 1頭 多摩川 (浅川合流付近) 阿江他5名
 1. 21 1頭 " (滝山城跡下) 三 好
- (5) ムササビ
 3. 8 1頭 八王子市小津町集落内 (巣箱の中) 粕谷他16名
- (6) カジカガエルの声
 4. 19 浅川 (松枝橋=鶴巻橋) 福 島
 5. 2 北浅川4地点 (①陵北大橋=元木橋②元木橋上流150m,
 ③松竹橋下流200m④大沢橋下流10m) 今井, 関根, 馬場
 6. 7 北浅川 (大沢橋=陵北大橋) 今 井
- (7) アマガエルの卵 3. 8 八王子市小津集落の水田 粕谷他16名
 " の声 5. 16 長 沼 公 園 馬場夫妻
- (8) カワモズク
 3. 7 八王子市堀の内、寺沢川上流部 粕谷他6名



短 信 欄

バードガイドの種類が増加

昨1991年1月に小山会員から、自作のバードガイド（実物大薄型野鳥模型）50種が寄贈され、探鳥会等で野鳥の識別説明に威力を発揮しているのは皆様ご存じの通りです。そしてこのほど（本年3月）、新たに21種のバードガイドが本会に追加寄贈されました。小山万太郎さん、ありがとうございます。

✦ 平成4年9月以降の探鳥会のスケジュール

- 9月6日（日） 多摩川河口（小島新田） JR八王子駅集合
- 9月13日（日） 浅川（陵北大橋＝松枝橋） 陵北大橋集合
- 10月4日（日） 浅川（大沢橋＝陵北大橋） 大久保バス停集合
- 11月8日（日） 浅川：公開：（大和田橋＝長沼橋） 大和田橋集合
- 12月13日（日） 浅川（鶴巻橋＝松枝橋） 鶴巻橋集合
- 12月31日（木） 年末探鳥会（場所未定）
- 平成5年
- 1月10日（日） 浅川&支流（ガン・カモ類一斉調査：定期総会開催）

図書案内

てくてくマップ高尾（北海道地図(株)発行、B6版 620円）

最近ブームになっている、ウォーキングのための案内書ですが、野鳥、昆虫、野草、樹木等の観察書としても分かり易く、バードウォッチャーが野鳥以外の自然に目を向ける手引書としても好適です。他に御岳・奥多摩等の分冊があり、地域別のシリーズとなっています。執筆者は各地域で自然観察会の指導等を行なっている方々で、1万分の1地形図を基本に、自然、人文の情報を併記した見開きコース図や、コース周辺の概要、観察記録ページから構成されています。

東京都緑の推進委員に本会から3名委嘱される

緑の推進委員は、東京都における自然の保護と回復に関する都の施策に協力し、地域の自然保護や緑化活動の中核的役割を担って、積極的に推進していく民間協力者として、条例に基づいて知事が委嘱するものです。

従来は、粕谷会長が八王子市長推薦で委員になっていましたが、今般第10期（1992年4月～1994年3月）の委員としてさらに、三好副会長が八王子市長推薦で、また馬場会員が八王子ランドマーク研究会の推薦により八王子市長に委嘱されて、今般は本会からの委員が3名となりました。

会報「かわせみ」がミニコミ総目録に登録される

住民図書館（東京都世田谷区玉川）編で、平凡社から本年5月に「ミニコミ総目録（B5版、792ページ、9,800円）」が刊行されました。収録総数は全国で4709タイトルあり、その内の1つとして本会の会報「かわせみ」も記載されました。従来から、会報を毎号送付して来たいきさつがあり、今回、同図書館が実施したアンケートの結果に基づいて登録されたものです。

身近な生きもの調査の結果まとまる

環境庁が5年おきに実施する「緑の国勢調査」の内、1990年に行なわれた第4回調査は身近な生きもの調査で、本会からも多くの会員が参加しました。その状況は会報「かわせみ」No. 6（1991年2月発行）の39ページに記載の通りです。今般、全国集計が終りカラー印刷の報告書（B5版、96ページ）が出来上がりました。カワセミ、コサギ、イワツバメなどの全国的分布が表示されています。調査に参加した会員には既にこの報告書を送りましたが、未だ余部があります。希望される方は粕谷会長までご一報下さい。



カワセミの巣が危ない

..... 寺沢川上流部の河川改修計画

八王子市堀ノ内地区、多摩ニュータウン開発の波がここまで押し寄せていますが、寺沢川上流部周辺は多摩の原風景ともいえる谷戸が未だ生きずいています。寺沢川の源である谷戸には湧水が多く、林や畑の中を小川が蛇行し、一部の川岸は赤土の崖であったりして、生きた川の様子を見ることができます。このため良好な水質が保たれており、湧水によってのみ生きられる「カワモスク」が多く見られ、岸边にはニリンソウなどの野草が多く、赤土の崖にはカワセミの巣穴があります。

雑木林と谷戸で構成される多摩丘陵が開発という名のもとに自然破壊が進む中で、ここは最後に残されたオアシス的な存在となっています。八王子市はこの寺沢川を改修することとし、今そのための調査計画、地元説明等の段階になっています。寺沢川は小栗川の支流であり、寺沢川の下流部は東京都の管理、上流部は八王子市の管理となっています。下流部の都管理部分は昨年既に深掘し、3面コンクリートによる排水路に変えられてしまっています（これはどう見ても「川」ではありません）。今般の計画はこれに接続する上流部分を改修するもので災害防止、治水が目的であると市は説明しています。

この河川改修に対し黙っていれば下流部と同様に、「川」が消滅し「排水路」に変えられてしまいます。川の一部である赤土の壁（カワセミの巣穴があるところ）もどうなるか分かりません。建設省は2年前の平成2年に、河川改修にあたって「多自然型川作り」を積極的に進めるよう通達を出しています。しかし、この通達の趣旨は全く生かされていないのではないかと懸念されます。

このため、天野谷戸のホタルの小川の会、多摩丘陵の自然を守る会、寺沢農業を守る会、緑の推進委員八王子の会等は平成4年5月6日八王子市長に対し、寺沢川の河川改修にあたって「自然を残した生きた川作り」を提示していただくよう要望書を提出しました。

八王子カワセミ会もこの要望書の提出に参加するよう要請を受けましたので、5月10日の役員会で、今後更に市などに要望書などを出す場合には本会も名を連ねカワセミの巣を守ることに協力することとなりました。本会の立場は河川改修に全面的に反対するのではなく、河川改修と「自然を生かした川作り」を両立させて欲しいというものです。

1人でも多くの会員が、相互に誘い合うなどして、現地に出向き探鳥、野草観察などを行ない谷戸のすばらしさを味わってみて下さい。その際、緑の推進委員八王子の会が作成したカラーのイラストマップ（案内書）がありますので、これを利用すると谷戸の理解が一層進みます。このマップを欲しい方は粕谷まで申し出て下さい。（文責：粕谷和夫）





正会員として参加出来た第1回探鳥会

1992. 4. 12

川戸 恵一

私は今年3月8日に行われた「自由参加の探鳥会」終了後にお誘いを受けて入会させて戴いた探鳥会の一年生です。可能な限り参加させて戴きます故宜しくお願い致します。

昨年、図書館で「市の鳥候補5種」の中から、私は見たくなければ何時でも誰でも何処でも見ることが出来る『カルガモ』に投票して、当選確実と期待して居りました。市民投票の結果は象徴的な鳥に軍配が上がりましたが、その時から居るなら見てやろう、声も聞いてみよう、と考える様に成りました。とにかくオオルリを「幻の鳥」にしない『都市作り宣言』がされた事は有意義な事でした。

粕谷和夫様が『カワセミ8号』で紹介された八王子カワセミ会の提案と木村晴美様の活躍は感動的でした。とにかく1年生に入学を許されたのだから退学させられないように勉強したいなと思います。

平成4年4月12日は、丁度平地の桜が、山桜を残して満開を過ぎた頃でした。午後からは悪天候が予想されるお日柄でしたが、八王子カワセミ会は予定通りにリラの花が薫る多摩川滝山下のグラウンドに集合致しました。手紙で入会申込をした家内の事を覚えて居て下さり、参加費を差し出し署名を致しましたら、今日は奥さん参加されますかと声を掛けられ、きめ細かな心配りに感激致しました。集合場所で「ハシボソガラス」の巣の幼鳥を確認して望遠鏡のウォーミングアップを終了し、肉眼で「ツグミ」のチョコチョコ散歩を見ながら大封筒入りの書類を戴きました。

担当幹事さんから今日の注意が有り、いよいよ出発。川原への道での「ホオジロ」の声に『一筆啓上仕り候』を思い出し、「ウグイス」や「キジ」の声の出迎えを受けながら、水量豊かな多摩川の川岸に出てすぐ中州に堂々たる「アオサギ」を見つけました。衝動買いした重い双眼鏡より、覗かせて戴いた望遠鏡の威力に魅了されながら、様々の鳥類を次々と鑑賞することが出来ました。退屈するどころか各種の「アヒル」「ユリカモメの夏羽」「カルガモ」「コガモ」「カイツブリ」「カワウ48羽の飛翔」「トビ」「ダイサギ」「ヒドリガモ」「アマツバメ」「ツバメ」など。重い双眼鏡に疲れてふと気が付くと、懸命に『つくし』を採集している御主人や柔らかそうな『ノビル』をチャッカリ抜いている御婦人方も居られて、一石二鳥の余裕ある楽しみ方に感心しました。上流に暫く進んだところで狸の遺骸に対面したり、狐の足跡を見つれたり、自然を友とし見分ける方々の眼力に敬服致しました。

と、突然前方の雑木の中程に白く見える鳥が居ます。何だろう。誰かが椋鳥だと囁きました。しかし私は椋鳥は秋川の川原で見てから、人に聞いたりして嘴は黒くない事は知っていたので、嘴も脚も黒いから違う様だと申しましたら、今度は誰かが「コムドリ」かも知れないと言い、後ろ向きにならないかなと言いました。するとどうでしょう。暫くするとクルリと後ろ向きになり背羽を見せて呉れたのです。決定です。後で聞きましたら、この鳥は『超』珍しい鳥だそうで、ラッキーだったそうです。

「ヒバリ」「脚輪付きアオジ」「シジュウカラ」「ムクドリ」「タシギ」「イソシギ」、幸運はまだ続きました。最上流部の本流より分離した水面に本会のシンボルの「カワセミ」の登場です。出たぞ！の声で美しい姿を見せてくれた彼氏は、暫く水面上2～3メートルの所でホバリング。背景も絶好のカメラポジション。水面に急降下したが水中に入らず元の枝に戻り、一時フェイントを掛けてから、直ちにジャンプイン。魚をくわえたらしく観衆を喜ばせて呉れました。しかしその時唯一人悲運に見舞われた人が居ました。油断大敵とはこのことか。折角ソニーのビデオカメラ「ハイ8」を持参しながら、スタンバイしてなかった方です。とにかく以後、全員を堪能させるまで彼氏は動こうともしませんでした。同じ場所で、「ハクセキレイ」「キセキレイ」「セグロセキレイ」「タヒバリ」など次々と姿を見せて呉れました。

最後に「イタチ」まで見る事が出来た人も居て楽しい探鳥会は全員無事終了致しました。「ホウジロ」の声を聞きながらの鳥合わせで本日確認できた鳥の数46種でした。1年生の私が確認できた鳥の数は34種でした。

アマチュア無線を始めてみませんか



アマチュア無線は野鳥調査、野鳥情報交換、探鳥旅行等に威力を発揮します。始めるためには第4級アマチュア無線技師の資格を取ることが必要であり、試験は日本無線協会が実施しています。東京の場合、毎月25日までに受験申請を受け付け、それから2ヵ月後が試験（筆記試験のみ）日となります。この2ヵ月間に受験勉強すれば必ず合格します。勉強のためには、誠文堂新光社発行の「完全丸暗記初級アマチュア無線予想問題集の最新版（ポケットサイズ、480円、最寄の書店で購入可）」が便利です。受験申請書の様式はハムショップ（無線機販売店）で購入できます。本会にハム仲間がふえることを期待します。

（照会先：山崎 悠一、今井 達郎、粕谷 和夫）

ツルの北帰行を見る

粕谷和夫

平成4年2月21日～23日、鹿児島県出水市荒崎にツルの北帰行を見に行った。場所は鹿児島本線出水駅から約12Kmの地点、毎年10月から3月まで環境庁が農家から借り上げた約50haの水田にツルが集まり、これがふるさと創成資金によって建てられた観察センターから一望できるようになっている。今年のツルの渡来数は過去最高の9660羽だそうでナベヅルとマナヅルの2種が殆どを占め、それ以外の種はわずかであるということであった。

観察センターから見て、その数の多いこと、鳴き交わす声の賑やかなことに圧倒されてしまった。タゲリ、ハクセキレイ、ヒバリ、タヒバリ等もこの水田に来ていた。コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギもいた。水田の一部には水が張ってあったが、これはツルが夜のねぐらとして集まるところであり、そこにはオナガガモ、コガモに混じりツクシガモ♂4羽も認められた。観察指導員の説明によるとカナダヅルもいるというので夢中で探し、東の外れにマナヅルのファミリーと一緒にいるカナダヅル1羽をようやく探すことができた。

ここはツルだけでなく周辺一帯、野鳥観察に最適の場所である。約50haのツルの水田の外側の水田やそれに続く西干拓地、東干拓地および野田川、江内川とその河口の干潟を3日間歩きに歩いた。その結果、全部で60種の鳥を見ることができた。とにかく鳥が多い。種類も数も。カラスも多いが殆どがミヤマガラスで、その群れの中にコクマルガラスが少し混じっていた。

ボソヤブトガラスは数羽しかいない。ここではヒヨドリ、ムクドリなど普通の鳥は数が少なく、その少ないムクドリの中に1羽のホシムクドリを見つけた。水田のあぜ道を歩いているとタシギ、ホオアカもかなり目についた。アシの中には必ずオオジュリンがいた。しかしツリスガラが出なかったのは残念であった。湿地もあちこちにあり、ここではバン、オオバン、ヒクイナを見た。

ツルの北帰行は2月22日と23日に見た。いずれも午前中(10時～11時半)であり、特に23日は天気も良く、約400羽のナベヅルが次々に飛び立っていった。10羽～30羽の単位で頭上近くからゆっくり大きな輪を描きながら何回も何回も旋回し、約10分間かけて上昇し、その姿がかなり小さくなった頃大きなV字形の編隊をつくり、西の方を目差して次々に飛んでいった。実に見事な北帰行であった。

50haのツルの水田の殆どは乾田状態でその中に水を張ってある水田が1部あり、そこがツル達の集団ねぐらとなっていて、夜は全てこの狭い1角にひしめき合ってしまう。大部分を占める乾田状態の水田と農道に給餌のため毎朝小麦をまいていた。これは他の農耕地にツルが飛散して農作物に被害を与えるのを防ぐためである。従ってこのツル達は野生とはいえ、現実には人間によって養われている訳で、将来万一地球上に人類の食料不足の事態が生じた場合、先ず第1にこのようなツルが犠牲になってしまうのではないかと考えさせられてしまう。これだけの大量のエサを与え続けることは果たしていいのだろうか。

クビワキンクロとコスズガモを見た！！

三富 恒男

上野の不忍池に二大珍鳥、クビワキンクロとコスズガモがいると「BIRDER (バーダー)」という雑誌に書いてあったので、本年2月16日に探鳥に行きました。数百羽のキンクロハジロの中から見つけるのは大変でしたが、東京野鳥の会の探鳥会に出会って両方のカモをみることができ、幸運でした。

(注：クビワキンクロは1984年2月以来本年まで9冬連続、またコスズガモは1986～7年の冬から毎冬渡来しているとのこと。不忍池のどの辺にどういふ状況でいるかは「BIRDER」の本年3月号に詳しく書いてあります。私も三富会員に続く3月30日、この雑誌の説明のとおりの所で観察しました。次の冬も同じ場所にやって来るのではないかと思います。 <柏谷>)



飯
島

洋
子

鳩浮巢雨脚早くなりけり

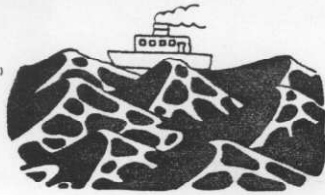
巢をはなれ親の背にのる鳩のいて

鳩の子のもぐり上手になりていし

枝水づく浮巢のけはひありにけり

鳩の子のちよつとはづれて浮きにけり

か
い
つ
ぶ
り



三宅島探鳥行

T. Hanzawa

平成4年4月23日～24日、念願だった三宅島のバードウォッチング・ツアーに参加した河村夫妻の企画で、総員13名が竹芝栈橋を23日午後10時10分発の東海汽船に胸を膨らませて乗船。

24日午前4時40分、三池港に到着。港から民宿に向かう道路脇の土手の上でウチヤマシマセンニュウの早速のお出迎えに感激しつつ、民宿に着く。

荷物の整理もそこそこに、朝飯前の探鳥に大路池（火口湖）へ出掛ける。カラスバト、アカコッコ、イジラムシクイ等20種以上を観察し、宿へ戻ると庭の餌台にはスズメをはじめオーストン・ヤマガラ、カラヒビ等がやってきて我々の目を楽しませてくれた。

朝飯後、写真家の津山さんがわざわざ我々の為に作成して下さった案内図を頼りに行動を開始する。

先ず、三宅高校裏へ行く。ゴイサギの他、小屋付近でアカコッコの番を観る。

牧場ではアマサギが牛の後を追っていて、背中に乗って虫を食べているのどかな風景に思わずほほ笑む。

次の長太郎池では、イビヨドリ、オミズナギドリ、イツギ等を観察し、アコン崎で昼食。食事をしながらウミウ、ヒ、ウミネコ、イビヨドリ、ウチヤマシマセンニュウ、ツバメを観るうちに雲行きが悪くなってきたので早めに切り上げ出発する。途中でとうとう雨になった。

民宿での夕食は、三宅島名物のアシタバ、クサヤを着に地元焼酎“島娘”で乾杯となった。

夕食の後、アオバクを観に出掛けたが声は聞くが姿は確認出来なかった。

翌24日、早朝5時、朝食前の探鳥に出る。

民宿前の道を海岸へ向かう途中、樺の林の中ではタネコマドリが沢山さえずっていた。

海岸に出ると、キアシギ、ウミネコ、オミズナギドリ、クロサギ等が観られた。

民宿の奥さんは、我々の精力的な行動に驚いていた。

朝食をすませ、民宿を引きはらい2日目の探鳥に出発、伊豆岬に向かう。岬では、ウミウ、ゴサギ、ウチヤマシマセンニュウ、キアシギ、等の他、メリケンキアシギのおまけまでついた。

続いて薬師堂へ行き、入口でタネコマドリの番を観察、奥へ入ってカラスバト、ミヤコゲラ、オーストンヤマガラ、モスゲミソサライ等を観る。

あいにく天候は曇りで海岸は風が強く、時々小雨が落ちてくる時もあったが、一応予定のスケジュールを消化できた。

正午前、三池港へ到着、近くのレストランで昼食、三宅島ならではの鳥達に会えた喜びをビールの乾杯で満喫する。

午後1時20分発、一同元気で帰途につきました。

機会があれば、時間をゆっくりとって又探鳥したいね！

バードリスニングと定点観察

大関 豊

オオルリの調査に参加して、あることに気がつきました。私の担当区域は南高尾でしたが、下調べを含めて行った回数は5回でした。何回も行っているといつのまにかここでひと休みという場所ができます。私は下戸なのでちょっと一杯というわけにはいかず、コーヒーを沸かしてちょっと一服となるわけです。

平日のためか人も来ない、一人なので話し相手がいない、となればその間に静寂な時間が生まれます。聞こえてくるのは「風の音、木々の音、そして鳥の声……」。初夏の風を受けながらのコーヒーも又なんともいい気分なのですが、鳥の声を聞きながら自然の中に身を置く……。この一見ムダな時間が非常に気に入りました。

シジュウカラが次々近づいてくる、ホオジロはあの辺に、ヒヨドリが大きな声で、ホトトギスが鳴きながら上空を、時々聞こえるアオゲラの一声、遠くでかすかに聞こえるツツドリ・アオバトの声、そしてオオルリ・クロツグミのさえずり、コゲラ・メジロ・カケス・イカルなどなど……。

鳥の姿は見えなくとも、声でその気配を感じられるのです。みなさんも経験があるかと思いますが、歩いていると警戒音を発しながら去っていくのが殆どですが、ジッとしていると鳥の方から近づいてくれます。去って行かれるのは悲しいものですが、近づいてくれるとうれしいものです。

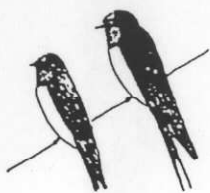
このことがきっかけでそれ以後できるだけ定点観察とバードリスニングを心掛けるようになり、もう一つのバードウォッチング法として私の楽しみとなりました。

「この場所で、来るまで待とうサンコウチョウ」

もう一つの身近なバードリスニング法として良い方法があります。それはテレビです。ドラマや映画・実況などでのバックで時々鳥の声が入ります。NHKの大河ドラマ「信長」ではオナガが声でよく登場します。

ひと味違うバードリスニング……皆さんもどうぞためしてみたらと思います。





燕の巣作りと巣立ち記録

平成4年7月11日
八王子市絹ヶ丘 山崎

- 5月18日 2羽の燕が玄関前のポーチに巣作り開始。
近所の抱卵中の燕に比べ、時期的に遅いのが気かり。
- 5月21日 最初は巣材の土が下に落ちる量が多かったが、基礎部が壁に固定されてからは効率が上がった。
- 5月24日(1週目) 巣完成。糞くずと土が上手に組み込まれている。
- 5月25日 2羽の燕が巣の中に入っていた。
- 25日以降 毎日巣の中に親鳥が1羽。
- 5月31日(2週目) 卵を生み終わったヨ付は不明だけど、抱卵を開始した。
- 6月7日(3週目) 外見の変化はなく、じっと抱卵を継続している。
- 6月14日(4週目) やはり何の変化もなく、抱卵を継続。
- 6月21日(5週目) 巣の中に親鳥が1日中不在。抱卵をあきらめたのか？
- 6月22日 巣完成からの累積で数個の糞のみだったのに、糞の量が増えた。21日は糞がかえたので、親鳥は餌を取りに行っていたらしい。
- 6月23日 「ニイニイ」と雛鳥の鳴き声が聞こえた。
産毛の頭が4つくらい見えた。
2羽の親鳥が頻繁に餌を運び始める。
- 6月28日(6週目) 雛鳥は5羽と確認。口の中が異様に黄色。嘴の周囲は白。
顔中を口にして餌を受けている。
- 7月4日 雛鳥は巣の外にお尻を出して糞を飛ばすが、その後片側づつ羽を伸ばす行動をする。
雛鳥の喉の嚙脂色が濃くなった。
午後には体を巣の外に乗り出し巣にしっかりつかまって、羽をバタバタさせる。5羽ともに交代で実施した。
- 7月5日(7週目) 巣が狭いという感じで、5羽とも上半身を乗り出すように巣の中に納まっている。
- 7月7日 朝、巣の中はからになった。ペンギンの尾のような雛鳥が電線にとまっている。
でも、夕方には5羽とも巣に戻っていた。
- 7月8日 朝、また巣の中はからになった。今度は夕方にも戻っていなかった。

土曜・日曜以外は朝と夕のみの観察結果のため、産卵や巣立ちの詳細などの十分な把握ができなかった。

遺跡の山でサンコウチョウとつきあいながら 馬場氏の「近頃雑感」に思う



平沢 辰夫

5月7日
平成3年の初めから入っていた町田市小山地区の発掘調査も4年3月で終了し、4月から他に移ることになっていたのだが諸々の事情で今日からようやく新しい現場（やはり町田市小山町浜街道西側の山約8000m²）で働くことになる。

5月15日
新しい現場の環境から（前の現場でも4/27頃オオルリの声を聞いていた）オオルリが居てもおかしくないかと注意していたが、やはり鳴いてくれた。どうか渡りの途中でなくてこの山に留まってくれと願う。

5月27日
オオルリを確認できないまま6月に入り、ホトトギスも毎日聞けるようになり梅雨の季節に入る。

6月1～15日
しばらくオオルリのさえずりを聞いた所から離れて仕事をしていたが、久しぶりに戻ってみるとまだ声は聞こえる。居てくれたかと思いながら、どうもあの声はちょっと違うかな？と迷うようになり、その山に入ってみる。広葉樹と針葉樹が混成して笹竹が密生した中は昼も暗いほど繁った窟状のところ。これはヒョットとしてサンコウチョウが居てもおかしくはない所だな？…そうだ、あの鳴き声はサンコウチョウだ！という思いが強くなる。

6月22日
オオルリを探すことばかりで頭が一杯だったあの時期、サンコウチョウなど思いもよらず、勘違いしてしまっていた自分に苦笑しながら、昼休みに蕨蚊に刺されながら暗がりの中にしゃがみこんで口笛で「チーチョーホイ、ホイホイ」をやってみる。（大分練習した。）

すると何とそれに反応して鳴き返して近づいてくる距離がはっきり感じられ、やがて空明かりの中に交差している木の枝々を翔ぶヒヨドリや他の小鳥達と違う赤っぽい鳥が一羽居るではないか！ようやくの思いで双眼鏡でとらえることが出来、立派な雌であることを確認することが出来たのだ。

口にたくさんの虫をくわえていたところを見ると、すでに育雛中であると思えるので、巣を探すのは場所的に難しいし、この俣静かに見守って、あと雄の姿と、せめて雛達の巣立ちの姿を観察したいものと思っている。

ただ、このサンコウチョウが繁殖できるような環境は、この地区の開発整
美計画では、保存はおそらく無理なことと思われる。馬場氏の「近頃雑感」
を読み、大いに共感したものの、反面、政治や行政の基本が民生の安全と快
適さ・豊かさの追求ということで、自分達自身がすでに大規模開発という恩
恵の中で文化的な生活を営みながら、一方で自然の消失を責めるのは少々身
勝手ではあるまいかと思うのです。

首都圏一極集中、経済・機能優先等の問題はここでは論じきれないが、す
でに住宅用地の大規模確保の最後のターゲットとしての多摩地区のこの10
~20年の変貌を見ると、全く生(≠)の自然の俣のようだったこの土地に
永い間不便と不快と貧しさに耐えて生活してきた住民に対して、人工的開発
によって整備された環境に移り住んだ人達が「ヘビ、トカゲ、カエルや虫は
いやだが自然は残して欲しい」と言う。その『自然』とは一体何なのか？と
考えざるを得ない。私はカワセミ5号に「自然と野生についての一考察」と
いう小論で述べた通り、都市計画、住環境作りにおいて、生(≠)の俣の自然
には及ぶべくもないが、加工された自然の中で生きとし生けるものが共存す
る為の知恵を絞り提言を行っていくことが大切で、その実現を信じ見守って
いくことであり、さもなくば自分から逃避するしかないと思うのです。

また、同文中、「遺跡発掘調査に名を借りた伐採……」のところは誤解さ
れていると思います。この調査は埋蔵文化財保護法（これが税金の愚かしい
無駄使いかどうかは分からないが）によって、すでに開発・整理・移転等が
決まった場所について、必要な場合に行われる事前調査（これはたとえ個人
の住宅であっても必要あれば適用される）であって、むしろ開発造成側から
すれば大変迷惑なことで、かえってそうしたことにブレーキをかけていると
いう見方もできるのではないのでしょうか。

ともあれ、私もこの遺跡発掘に携わってすでに4年目になりますが、私が
働いてきた町田市と八王子市の境界線である丘陵地の相当の部分が、規模の
大きい野鳥、小動物、山野草などを主とした自然公園になる計画も報道され
ていますので、セクショナリズムにとらわれない大きな視野での立派な公園
となって再会出来る日を楽しみにして、日々遺跡の山に老いの汗を流してい
る次第であります。





身近にいる鳥たち

'92-8-10

馬場 裕

最近、通勤途上や乗り物での移動中に鳥を見ることが多くなりました。仕事柄、東京を離れることもしばしばなので、たいてい双眼鏡とフィールドノートを持って行くようにしています。時間に余裕があれば、その地方での特有な動植物を見に行く楽しみもあり、会議などで高まった緊張を大いに和らげてくれます。特に、出張が休日に掛るときなどはちょっとした探鳥行の気分です。先月も山口県美祢市で9日間の技術研修があり、近くの野山や干潟に遊ぶ機会を得ました。宿舎に着いて早々、そばの神社境内の森で20~30羽のササゴイとその集団囀りを発見し、2日後には、工場にそって流れる厚狭(ア)川にバンのファミリー(2+1)を観察、BWするよりずっと昔、井之頭公園で見た以上の感動を味わいました。今度行くときには、宿舎の樹にいたキジバトの雛の消息を聞き、カワセミの巣穴が沢山あるという場所を訪ねてみるつもりです。こうした、普段とは違った気候・風土に生きている彼等と出会うと、嬉しさもまた格別です。さて、次のリストは今年前半に東海道新幹線(東京~大阪)で見た31種+の鳥です。

ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、トビ、(ケリ)、タゲリ、ユリカモメ、(カモメSP)、ウミネコ、キジバト、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、(セキレイSP)、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、シジュウカラ、(メジロ)、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト。

勿論、ここには新横浜など、駅のプラットホームから確認した種類(下線)がありますが、車窓からでも、多くの野鳥を見つけられるものだと驚きます。それに、声を聞けたり、あともう数秒あれば確認できたはずの鳥たち(括弧)も結構います。モノレール羽田線も同様でしょうが、おそらく新幹線から見られるのは40種を超えようと思います。というのは、沿線には畑やたんぼ、川や海など様々な自然があり、東西にわたる広い地域を短時間に次々と、鳥瞰的に見渡して行けるからです。そのかわり、瞬間の姿だけで判断せねばならず、それには日頃の観察の仕方や作法がものをいいます。探鳥会でいろいろな鳥に出会ったとき、特徴的な行動や形態を見極めようと、如何に心掛けてきたかが試されます。

晩春の頃、関ヶ原付近でアマサギがたんぼにいるのを見つけたときは、長いことコサギと決めつけていたのではないかとハッとしました。その後、暖かくなるにつれ、特に静岡以西ではかなり散見できます。何故か、一区画のたんぼに密集してタゲリや白鷺が舞い降りていることも印象深いことです。たまたま農薬散布を免れた為に、餌であるドジョウなどが多いからでしょうか。

私事ですが、7月初旬に所属部署を移って勤務地も溝ノ口になり、通勤経路がまだ新鮮に感じられます。駅を出てオフィスに向う途中の団地内の林に、コゲラを始めエナガやカラ類、メジロなどが群れており、しばしの「散歩」を楽しんでいます。多くの野鳥が人工的な環境にも棲息しはじめたと、「都市鳥ウォッチング(唐沢孝一著)」に書かれていることを、毎朝実感している今日この頃です。

八王子カワセミ会新入会員のしおり

あなたは今日から八王子カワセミ会の会員です。

この会は浅川及びその流域の野鳥を観察するグループで、次の目的に賛同した会員により構成されています。

八王子カワセミ会の目的

1. 浅川で野鳥のウオッチングを楽しむこと
 2. 浅川の野鳥の生息状況を調査し記録すること
 3. 浅川で野鳥が安心して住める環境を作ることに協力すること
- 等です。

本会の規約、前年の活動状況、本年の活動計画、会員名簿、役員一覧などは、別冊の総会資料を見て下さい。

探鳥会について

本会の活動の基本は探鳥会です。原則として毎月第2日曜日の午前中に浅川周辺で、また年数回遠出探鳥会を実施しています。探鳥会は『人と鳥の出会いの場』であり、『人と人との出会いの場』であり、また『自然のすばらしさに感動する場』です。

探鳥会の日時・場所などは、その都度事務局から会員宛に連絡されます。参加する時はハイキング程度の服装で、双眼鏡（7～10倍位）が必要です。（望遠鏡は必需品ではありません、鳥をその視野に捕らえた望遠鏡を覗かせてもらえばよいのです）。探鳥会への参加は義務ではありませんので、都合のつく時に参加して下さい、参加時には自分のネームプレートを付けて下さい。

もし、あなたが野鳥観察の初心者であれば、鳥の名前を早く覚える努力をして下さい。まず別冊の『浅川の鳥の見分け方（浅川の鳥基本50種の識別法）』の50種を覚えて下さい。覚えるコツは、鳥の特徴をつかむこと、先輩に何回でも聞くことなどですが、多くの人の目で見付けてくれる探鳥会に数多く参加するのが一番です。

調査活動への参加

本会の目的の2にある調査活動は、浅川を中心として概ね16カ所に分けられた地域を、会員が分担して毎月そこで見られた鳥の種類と数の記録をしています。また、季節に応じて各種の調査を行います。これらの調査活動にも積極的に参加して下さい。参加する時は、希望する地域の担当者に直接連絡して日時・集合場所を打ち合わせて下さい。また、事務局や担当者から協力の依頼があったときは、是非参加して下さいようお願いいたします。より多くの会員の参加により調査の精度が高まります。

会報について

本会では会報『かわせみ』を年2回（2月と8月）発行しています。その内容は、各種調査活動の記録、探鳥会の報告、会員の主張・紀行文・その他作品等です。会員の積極的な投稿をお願いします。原稿の送り先は編集長です。この会報の印刷・製本は会員による手作りで行っていますので、その協力をお願いします。お手伝い可能な方は編集長宛電話等で申し出て下さい。

会報は会員に配布するとともに、地元の図書館や他の野鳥保護団体、野鳥の研究機関、野鳥専門家等にも送っています。

会費と探鳥会参加費

入会金	1,000円
年会費	1,000円（入会金を納めた年は不要）
探鳥会参加費	200円

ただし、高校生以下および同一家族2人目からの会員は入会金・年会費とも半額です。

会費は暦年（1月1日～12月31日）で運用しています。毎年3月末までに年会費を納入することにより、会員の資格は継続されます。年会費の納入は次のいずれかの方法で会計係に納入して下さい。

- ①探鳥会等の催しに参加した時。
- ②毎年1月に開催する総会に出席した時。
- ③知人・友人等に託する。
- ④郵便振替口座（東京4-555001 八王子カワセミ会）に振り込む。
- ⑤その他の方法による。

3月末までに年会費の納入がない場合は、その年は退会と見なされますので注意して下さい。

探鳥会に参加した時は、その都度1人200円の参加費が必要です。但し高校生以下は100円となっています。

これらの会費は、八王子カワセミ会の主な運営経費となります。

その他

本会では、野鳥に関するイベントの開催や他の団体の探鳥会の支援、他の団体等と各種行事の共催なども行っています。これらの諸活動は、すべて総会や役員会での決定を経て実施に移されます。会の運営について不明のことやご意見がありましたら、遠慮なく幹事に申し出て下さい。

八王子カワセミ会は野鳥の同好者の集まりです。今日からあなたもその会員です。浅川やその他の場所でできるだけ多くの野鳥に出会い、できるだけ多くの人に出会い、我々の住む環境が鳥も人も安心して住めるようになるよう共に活動しましょう。あなたの活躍を期待しています。



編集後記

☆ 会報9号が会員の手許に届く頃、夏も終盤に入り、夏鳥と冬鳥の交替が始まる。

この会報も、藤江副会長から最新の印刷機を拝借し、会員有志にパソコン、ワープロによる原稿作成の協力をしていただく体制となり、編集子としては大変有り難く存じておる今日です。それにしても創刊号の発刊当時がなつかしく思い出されます。

☆ 過日、三宅島探鳥に始めて行きましたが、こんな所でもと、空缶やゴミ屑が捨てられているのを見て、がっかりするやら、憤るやら・・・考えよう 地球環境について・・・

☆ 東京の区内では、カラスは、ほとんどがハシブトカラスであると云われています。八王子市の地域では、ハシブトとハシボソではどんな割合で生息しているのでしょうか、一度調査してみるのも面白いと思いますが、皆さん如何が・・・

☆ 次号（第10号：平成5年2月刊）への会員各位の投稿をお待ちしています。

会からのお願い

平成4年の1月から「我が家の庭に来る野鳥調査」を会員各位にお願いして、12月まで毎月記録していただいておりますが、次号にその集計結果を掲載する予定であります。

多くの会員の参加があれば、それだけ興味ある分析結果が得られることになります。どうかお忘れなくご協力ください。





品 類 業 務

の 業 務 用 酒 類 食 品 専 門 卸 業 務 用 酒 類 食 品 専 門 卸



株式会社 ジャックフル浦島屋

〒192 八王子市元横山町 3-7-14

TEL (0426)25-1477 (代表)

FAX (0426)25-1248

事業概要

- ★料飲店用酒・食品卸
- ★酒販店用酒・食品卸
- ★一般家庭用酒・食品宅配
- ★料飲店経営コンサルタント
- ★酒販店経営コンサルタント
- ★酒類量販店経営

事業所

- ★田町配送センター ～田町1-5 TEL 0426-26-4953
FAX 0426-26-8922
- ★田町現金卸売センター『酒市場』 ～田町2-5 TEL 0426-26-1330
本社ビル1階 FAX 0426-25-2581
- ★料飲店経営情報センター ～田町2-5 TEL 0426-25-1477
本社ビル2階 FAX 0426-25-1248
- ★大和田宅配センター ～大和田町2-9-2 TEL 0426-44-6412
FAX 0426-44-6412 (夜間切替)
- ★リカーキング高倉店 ～高倉町50-6 TEL 0426-44-7151
FAX 0426-44-7152
- ★リカーキング北野駅前店～北野町545-5 TEL 0425-45-2282
FAX 0425-44-0059





Hachiōji
Kawasemikai

カ　ワ　セ　ミ

1992年8月

— 第 9 号 —

発行人

粕谷和夫（八王子カワセミ会・会長）

編集人

三好恒雄

連絡先

八王子市中野上町5-29-3 TEL:0426-26-8634